

# 令和7年産 麦作情報 第2号

宮城県亘理農業改良普及センター

令和7年3月13日発行

電話0223(34)1141 FAX0223(34)1143

ホームページ<https://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>

## 1 麦生育状況

地区名	品種	播種時期		3月10日調査 (3/10実施)			予測	
				草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	幼穂長 (mm)	減数分裂期 (幼穂長が20~30mmの頃)	出穂期 (全莖数の40~50% が出穂した日)
名取市 本郷	シュンライ	11月2日 条播	本年値	11.9	690	1.7	4月16日 頃	4月25日 頃
			平年比,差	73%	97%	-2.0		
名取市 下増田	シュンライ	10月23日 散播	本年値	9.4	2,200	1.0	4月21日 頃	4月29日 頃
			平年比,差	62%	167%	-2.4		
平均			本年値	10.7	1,145	1.4	4月18日 頃	4月26日 頃
			平年比,差	68%	142%	-2.2		

※減数分裂期及び出穂期の予測は「麦生育予測シートVer. 4.0」（名取アメダスデータ）の予測日

- ・1~2月は気温が平年並みからやや高め、日照時間は多かったが、生育ステージは昨年よりやや遅れています。
- ・3月10日調査の幼穂長は約1.4mmであり、間もなく幼穂形成期（幼穂長2~3mm）となります。
- ・減数分裂期、出穂期は前年よりやや遅れると予測されます。

## 2 今後の栽培管理

### (1) 大麦の追肥

- ・追肥のタイミングが遅れると、品質低下（硬質粒の発生）のリスクが高まります。

追肥の種類 (生育ステージ)	幼穂形成期 (幼穂長2~3mm) (3月中旬~4月上旬)	減数分裂期 (幼穂長20~30mm) (4月中旬~4月下旬)	穂揃期 (8~9割が出穂)
目的	有効茎歩合の増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟の向上	-
10月中旬に 播種したほ場 (生育量が多い)	窒素成分 2~2.5kg/10a (硫安 5~10kg/10a)	窒素成分 2~2.5kg/10a (硫安 5~10kg/10a)	硬質麦 防止のため 実施しない

幼耳間長から 減数分裂期を判断	減数分裂期（葉耳間長 —30mm~ +39mm）				
幼穂長	20mm		25mm	30mm	
葉耳間長(mm)	シュンライ -30~-19	→ (1~2日)	-12~0 -25~-15	→ (1~2日)	+23~+39 +5~+18
葉耳間長の形態的推移					

## (2) 麦踏み (踏圧)

- 越冬後の麦踏みは茎立前まで (幼穂長約 2mm) までとされています。 適期を過ぎた麦踏みは、幼穂を損傷する恐れがありますので行わないようにしましょう。

次号は、4月15日頃発行予定です。